蒲田地区優秀作文

よりよくしていく

大田区立安方中学校　三年　本多　慶佑

私は以前、子ども若者の居場所づくりに関するプロジェクトに参加したことがある。地域が一丸となって子ども若者の過ごしやすい環境づくりの輪を広げていくという目的から「輪プロ」と呼ばれているものだ。そこには役所の職員さんから子ども食堂のオーナー、自治会の人まで様々な立場の人がいて、私は知人からの紹介で、若者目線で声を届ける人として参加した。私が住んでいる区に〝子ども食堂〟の一号店があるということは知っていたが、その他にも自分が知らない実に多くの取り組みがされていて、驚いた。ほぼボランティアなのに、時間もお金もかけて私たちのために多種多様な活動をしてくれていたことに、とても心打たれた。

その会議に出た後、そういった活動の資金について少し調べた。すると、私たちの区では、そういった活動に対して区から補助金が出ていることを知った。それから市区町村の財政についてもっと調べると、こういった補助金は、主に市区町村の財源のうち国庫支出金、あるいは一般財源の中から出されることが分かった。国庫支出金は、私たちが国に納めた国税などが含まれる国庫金の中から、福祉や教育のための補助金など特定の目的のために市区町村に支給されるもの。また、市区町村の一般財源には、住民税や事業税、消費税の二割弱などの、住んでいる市区町村へ納めている地方税が含まれている。つまり、補助金の少なくとも数割は、私たちが納めた税金。私たちが税を納める、ものを買って消費税を納めたり、その他の税であったり、そうして、国や市区町村に納められたお金から、様々な活動のために補助金が出て、より快適な居場所づくりに繋がる。私を含む、多くの子どもたち、未来の子どもたちが、のびのびと心地よく過ごせるようになる場所が増える。私は今まで、税を納めることに対して少し負担だと感じていた。しかし、今回のことを通して考えが変わった。税を納めることは、社会をよりよく変えていける数少ない機会だ。私たちは税を納めることで、未来を少しずつよりよくしていけるのだ。

今この作文を書いているこの場所は、近くにある中高生ひろばの自習用スペースだ。このひろばは、子どもたちの新しい居場所づくりのために、数年前にできた。今では多くの子どもたちの居場所となり、賑わっている。このような心地よい居場所がもっとできるように、私は快く税を納めていこうと思う。